

平成19年度

今、思春期の子供たちは

どのように生きているのか その2

—気がかりな子供たちとのかかわり—

平成20年3月

東京都教育相談センター

## はじめに

東京都教育相談センター  
所長 関口 栄一

東京都教育相談センターでは、これまで、子供たちの生と死を巡る問題に様々な形でかかわってきました。

学校における事件・事故後の児童・生徒に対する心のケアを中心とした「緊急支援」もその一つです。その経験を広く学校および相談関係者に生かしていただきたいと「生命にかかわる事件・事故後の心のケア－学校の危機対応と緊急支援の在り方－」（平成16年5月初版、平成18年3月改訂版）を刊行しました。また、平成17年5月、子供たちの心の叫びをとらえて、支えていけるようリーフレット「子どもの心と命のサイン－気づき、受け止め、そして対応－」を都内公立中学・高等学校に配付しています。

平成18年6月に自殺対策基本法が成立するまで、学校を含めて世の中の取り上げ方は慎重でした。そのような中で平成17~18年度に意識調査を行い、平成19年3月、その結果を「今、思春期の子供たちはどのように生きているのか」として発表しました。本報告書は、「その2」として昨年に引き続き、生きにくさをかかえている思春期の子供たちの状況について、私たちが学校や当センターでかかわった中で得た知見を加えてまとめたものです。

学校では、事の深刻さに押しつぶされそうになりながらも、学校にしか自らの居場所を見つけれない子供たちに、様々に工夫し、懸命にかかわっている教師の姿にも出会いました。

一人の教師が一人で抱え込むのではなく、教師一人一人が子供たちとかかわっていけるよう、学校の中で広がりをもっていくことが大切です。私たち相談機関のスタッフも協働してかかわることができるならば、真に子供がいきいきと生きていくことにつながると考えています。

本報告書では、学校と当センターが思春期の子供たちの成長を共に支えていくための具体的な手がかりを示しています。子供たちの心の奥に耳をすまし、子供たちに声をかけていただければ幸いです。

## もくじ

はじめに	
〔要約〕	1
I 研究の目的	1
1 平成17～18年度 研究の概要	
2 本年度 研究の目的	
II 意識調査から見られる子供たち	3
1 気がかり群の周辺にいる子供たち	
2 「一般群」「予備群」「気がかり群」の比較分析	
3 気がかりな子供たちの対処方法	
III 臨床事例に見る子供たち	13
1 分析対象事例について	
2 事例分析の方法	
3 思春期危機にある子供たちの諸相	
(1) 死への傾斜を抱えた子供たち 〈気付かれにくい子供たち〉 〈自殺未遂を繰り返し、様々な症状を呈する子供たち〉	
(2) リストカットを繰り返す子供たち	
(3) 「不登校」の中にある“うつ”症状を示す子供たち	
(4) こだわりを示す子供たち	
(5) 逸脱行動のある子供たち	
IV 思春期における気がかりな子供たち	29
1 調査がとらえた一般的傾向	
2 臨床事例に見る子供たちの様相	
V 気がかりな子供たちとのかかわりを求めて	33
1 サインの見つけ方	
2 本人とのかかわり方	
3 保護者とのかかわり	
4 校内体制	
5 関係機関連携からネットワークの構築へ	
おわりに	39
参考文献	40

### 〔巻末資料〕

- 資料1 「思春期の心理と行動に関する意識調査」
- 資料2 平成17～18年度 研究報告書 サマリー
- 資料3 関係機関